（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回の職員会議や毎日行う朝・夕の申し送りで話し合いをし職員は理念を共有し統一介護を行っている。新規に利用を開始する本人と家族には重要事項と理念を説明し納得頂いている。玄関に来訪者にも解かる様運営規定を掲示している。職員一人一人が理念をしっかりと頭に入れ日々の介護をしている。	「心地よく、穏やかに」他5項目からなる理念については玄関に掲示し来訪者にもわかるようになっている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について説明をしている。また、月1回の職員会議と朝、夕の申し送り時に理念を確認し合い、それに沿った支援に取り組んでいる。職員の定着率も良く、理念の持つ意味を良く理解し、利用者の「その人らしさ」を確認し合い日々の支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区に加入し区費や神社費を支払っている。区の清掃活動に参加している。地域住民との交流を深めるよう職員に挨拶の徹底をしている。ホームの敬老会の折には手作りのお菓子を配った。区の防災訓練に参加している。	新型コロナの影響で地域との交流が難しい状況が続いているが一員として区費を納め、特に、地域の皆様との挨拶は励行するよう心掛けている。そのような中、区長や民生委員、地域の皆様から沢山の野菜の差し入れをいただき、感謝をしつつ献立に役立てている。また、ホーム内で行う敬老会の際にはお祝いの「手造りクッキー」を近所の皆様にお届けし喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長さん、民生委員さんを通じて、介護について聞いてみたいこと等があったら自由に訪問して下さいとお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し出席可能な家族が交代で参加され区長、民生委員、市担当者を交えホームの状況報告と活動報告をした。参加者からの要望及び助言をして頂きホームの運営やサービス向上に生かしている。会議終了後日朝の申し送り及び月1回の職員会議に全職員に報告、話し合いをしホームの向上に努めている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しているが、今年度は新型コロナウィルス感染の影響で開催できない状況が続いている。現状、委員あてに「状況報告」「行事報告」「ヒヤリハット報告」等、必要事項を書面にて配布し報告している。また、全委員が集まっての会議についても、一日でも早いコロナウィルス感染収束を期待し準備を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類や制度上の変更等で解からない事は市の担当職員に助言や相談にのってもらっている。介護認定更新、区分変更申請は家族からの依頼もあり代行している。認定調査員の訪問時、家族に代わり本人の様子を伝えている。市主催の講習会にも参加している。	代表者が定期的に市役所を訪問し、市の担当者と常に連携を取り様々な事柄について相談を行い運営の向上に繋げている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い、家族とも連携を取っている。新型コロナウイルス感染の影響で会議、研修会等も中止になっているが、再開後には積極的に参加する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書で身体拘束及び利用者の行動を制限しないよう定めている。治療上医師の指示でやむ得ない場合は医師、管理者より家族に説明し、了承を頂くこととする。	身体拘束をしないケアに取り組み、運営推進会議の席上でも報告をしている。身体拘束委員会の担当を決め3ヶ月に1回勉強会を行い意識を高め、拘束のないケアに取り組んでいる。所在確認をきめ細かく行うことに心掛け玄関は日中開錠されている。掛け布団に鈴をつけ音が聞こえるようにし、ベットよりの落下防止に取り組んでいる。また、家族と相談をし了解を得、安全確保のためセンサーマットを使用している利用者がいるが、可能な限り解除するようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について話し合いをしている利用者の行動を受け入れるようケアについて話し合いをする。職員相互の考え方を伝え話し合い、助言をし合う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の成年後見制度講習会へ参加し全体会議で話し合いをした。職員は理解を深めてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居事前面談時契約書、重要事項説明書を家族に渡し、職員が読み上げ説明をしている。不安、質問等があればその時に話し合い、問題点を残さないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の意見が聞ける様意見箱を設置してある。家族来所時管理者及び職員が本人・家族と話しやすい雰囲気作りと場を作るようにして家族から要望等があった時はミニカンファレンスを開き、要望にそえるよう意見交換をする。職員と話しやすい雰囲気作りに努めている。	利用者の介護度が上がり高年齢化が進んでいるが日々自由な生活を送っていただく中で気持ちが通い合う関係を築き、思いを受け止め支援に繋げている。昨年度より家族会を開催しており、多数の家族の参加がありボランティアの出し物や昼食会で楽しいひと時を過ごしている。今年はコロナ禍の状況であるが、敬老会、誕生日会等ホーム内での行事を行い、食事やケーキ、プレゼントでお祝いしている。また、毎月ホーム内の様子を管理者と担当職員よりお便りにして家族にお知らせし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を行い、意見を聞くようにしている。参加出来なかった職員には会議録を見てもらい伝達はしっかりしている。昼食を一緒に食べ意見や希望を話してもらっている。	月1回全体会議を行いホームの運営全般に渡って話し合い運営の向上に繋げている。勤務年数の長い職員が多く、利用者への問い掛け方の工夫や気付き方についてもよく理解していることから利用者も職員を信頼しており良好な関係が構築されている。ホームとしての目標管理制度があり、それに従い個人面談を行い処遇改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤勤務状況を把握する為管理者も夜勤するようにした。勤務表作成前に希望を聞き、希望に添えるように配慮している。日勤帯の昼休みはゆっくり休めるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に多く参加するように申し送り時に研修内容を報告し参加希望を募っている。参加希望がない場合は順番で参加してもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の交流会、勉強会に参加し、グループホーム連絡協議会（3ヶ月に1回）に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の感情を抑制させる事がないように傾聴し共感的態度で接している。利用者が望んでいる事を感じ考えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内を案内し家族の気持ちを配慮しながら不安なこと、要望等をお聴きしている。質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対して支援の提案、相談を繰り返していく中で必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態によりサービスを提供する事が大半の中全職員が介護する側される側を作らないよう努めている。利用者との会話で教えられたり励まされる事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から頂く情報を大切にし、ホーム側からも利用者の状態を伝え、一方通行にならないように心掛けている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望・協力にて外泊、外出は可能である。面会も自由にできるようにしている。 年１回家族会を開催している。	新型コロナウィルス感染の影響で友人や知人の来訪が難しい状況であるが近所の方が野菜や花を持って立ち寄っていただいた際に交流している。携帯電話を持つ方が若干名おり家族と話をしており、他の利用者もホームの電話を使い家族と話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9名の利用者同士の関係は利用者同士で築いていくもので職員はそれを十分把握している。認知症のレベルによりコミニュケーションが困難な場合孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後（医療機関、他施設、自宅等）約1ヶ月後にご家族に連絡し様子を聞く。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測ったりそれとなく確認している。意思疎通が困難な方にはご家族か関係者から情報を得る。	利用者の高齢化が進んでいるが職員は一人ひとりの利用者に常に寄り添い優しく話しかけ、「和気あいあい」といった雰囲気を醸し出し一つの家族として日々楽しく生活を送れるよう支援に当っている。日々気づいた事柄については申し送りノートに記録し、日々の状況を必ず確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に調査、見学、家族の面会時に話を聞き、情報の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムの理解に努めている。出来ない面より出来る事を伸ばしていけるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別に介護記録を作成し全職員が情報を共有している。変化があった時は随時カンファレンスを開いている。	職員は1～2名の利用者を担当し、家族との連絡、サービス担当者会議で使用するケアプラン原案の作成、日ごろのケアの状況などについて家族へ説明している。担当職員の作成したケアプラン原案を基に管理者がケアプランを作成し、看護関係についての説明も含めて家族に確認をしていただいている。プラン見直しは基本的には6ヶ月に1回行い、状況に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し全職員が情報を共有している。変化があった時は随時カンファレンスを開いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師が中心となり医療連携体制を整えている。看取りも行っている。病院や送迎等必要な支援を行っている。職員会議でその人、その時にあった介護を行うよう話し合う。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、区長、民生委員の方にも入ってもらい協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までの医療機関への継続の希望がある場合は受診にお連れし、また利用者の健康状態に合わせて総合病院で受診する（家族の許可を得る）。更に入居時には協力医療機関を必ず説明している。	全利用者がホーム協力医の月2回の往診を受け、オンコール対応で医師との連携もとれるようになっている。また、歯科、皮膚科についても必要に応じて協力医の往診で対応するようになっている。薬は処方箋に従い契約薬局より届けていただき、管理者が配薬を行っている。管理者が看護師でもあることから適切な医療が受けられるように体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を1名確保し医療連携体制を整えている。日常の健康管理・服薬管理・医療機関との連携体制も整えている。また職員の医療・健康管理・緊急時の判断力の向上に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合には総合病院の病棟看護師と利用者の情報提供及び交換を行っている。また退院後の生活の準備を整え、当施設での生活が継続できるよう支援している。退院時は医師、看護師、栄養士、家族とのカンファレンスをして今後の方針を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアカンファレンス及び同意書・医師確認書等を記入し早い段階から家族に説明し、平行して医師からも説明を受ける。また看取りケアを行う際、医師・ご家族と職員とでカンファレンスを行う。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。食事が摂れない等、機能低下が見られた時には家族に報告をし医師を交えて話し合い、医師より説明を頂き、合わせて同意をいただくことで看取り支援を開始している。看取り支援の際にはカンファレンスを行い、気持ちを一つにし取り組んでいる。この1年間で1人の方の看取りを行い、家族より感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の職員応援体制なども整備している。応急手当の仕方等も看護師が指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制については、自治会でお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけている。職員の連絡体制も整えている。避難訓練を実施している。区の防災訓練に参加している。	4月には火災訓練を行い、出火場所を特定しての通報訓練、消火器の使い方訓練などを実施している。6月には火災想定の避難訓練を利用者全員参加で行い、玄関先まで移動して手順の確認を行っている。また、10月には消防署員参加の下、消火訓練、消防署への通報訓練を行う予定である。更に、緊急時対応マニュアルも作成し防災意識を高め取り組んでいる。備蓄は「水」「食料品」などが3日分準備されている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように目立たずさりげない言葉がけや対応に配慮する。一人一人の誇りやプライバシーを傷つけないように職員の態度、言葉使いを徹底している。	言葉遣いについては優しい言葉を掛けるように特に気配りをし、自分がされて嫌なことは絶対にしないよう心掛け、気持ち良く過ごしていただけるように取り組んでいる。トイレ誘導の際にも気をつけそっと耳元でささやきお連れするようにしている。利用者の呼びかけは敬意を込め苗字か名前に「さん」をつけている。また、プライバシー保護の研修会も定期的に行い意識を高め取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と過ごす時間を通して利用者に合わせた声掛けをし、利用者の希望・関心・嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が過ごしやすい環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人一人の体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っていけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみを整えられるよう職員はお膳立てしたり不十分なところや乱れをさりげなく直している。本人の好みや意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるようにしている。旬の食材や新鮮な物を採り入れている。季節の行事食も取り入れている。	利用者のうち自力で食事を摂ることができる方が半数弱おり、他の方は箸やスプーンを手に持ち介助を受けながら食べている。平常時は職員も同じ食卓で食事を摂っているが、現在は新型コロナ禍という状況で、3蜜を避ける意味から間隔を取っての食事となっている。日々の食材については配食会社からのものを使い、「雛祭り」「クリスマス」等、月1回の行事の際には利用者の希望を聞きホームで調理をし楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事の摂取量の確認と記録、食べ方の変化の記録と情報を共有・食事形態の工夫。毎食時、おやつ時の水分摂取量の確認と記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。本人のレベルに合わせ全介助や半介助している。夕食後には義歯を洗浄剤につけて消毒している。ご自分で出来る方にはやって頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立されている方はもちろんだがオムツ使用の方でもトイレ誘導をし排泄して頂けるよう支援している。	平均介護度が4.3で全利用者が介助を必要とする状況となっている。100歳の方はおむつ使用で、他の方は安全確保のため付き添いが必要になっている。排泄支援については常に全職員で安全に配慮し取り組んでいる。また、排泄表を用いパターンを掴み、特に、排便についてはトイレ誘導をしているが、本人の意思に合わせお茶の前、食事の前後等にも声掛けを行いお連れしている。排便促進を図るべく「牛乳」「ジュース」等に合わせ、医師より指導のエンシュアドリンクの摂取も勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認し本人の排便コントロールの状況に合わせて下剤を服用したり浣腸を行っている。また食事摂取量と水分摂取量の観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿った入浴が出来るよう健康状態や事故防止に気を付けながら出来るだけゆったり入浴できるよう見守っている。	全利用者に湯船に入っていただき、気持ち良く上がっていただけるよう配慮している。日曜を除く毎日入浴が可能で、少なくとも週2回は入れるようにしている。入浴拒否の方もいるが状況を見て話をしながら週2回は必ず入浴できるよう進めている。浴槽は4方向から介助出来るようになっており、また、浴室全体が広く、100歳の利用者も湯船に入る時には職員3人で介助を行い、気持ち良く過ごして頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを作る。一人一人の体調や希望を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援する。また寝つけない・不安な気持ちがあるときには話をしたりしばらく付き添う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は看護ファイルにまとめてあり、いつでも全職員が確認する事ができる。常薬や薬の追加等は看護師より振り分けられ、誤薬のない様に与薬している。本人にも薬の説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人一人の出来る事を見出し、お願い出来そうな仕事を頼み感謝の気持ちを伝えるようにしている。編み物、貼り絵等の趣味を生かして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の体調や気分によって近所への散歩や車で外食に出掛けている。お花見（桜）や薔薇園等にも出掛けている。	介護度1の方は室内では自力歩行可能であるが、外出時は全利用者が車いす使用という状況である。新型コロナウィルス禍という中で外出も難しい状況が続いているが天気の良い日には車いすでホームの周りを散歩したり玄関前に出て外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いによりお小遣いは預かっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり手紙を書ける方には希望に沿えるようお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とホールがカウンターのみで仕切られているので調理している姿が見えたり匂いを感じる事が出来る。また食事作りを手伝って頂く事もある。居間には季節の行事に合わせた飾り物をしたり季節の花を飾っている。	開放感漂うホームはホールを囲むように各居室が配置され、家族のような一体感が感じられる。また、食事中には落ち着いた音楽が流れゆったりとした雰囲気で、利用者も職員と話をしたり歌を歌ったりしながら自由な生活を送っている。また、壁には口の体操で使用する歌詞や日頃の様子を映した写真などが貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーには小さな座卓があり冬場は炬燵が置かれる。また居間には大きな机があり利用者同士話をしたり新聞を読んだりして頂ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に利用者の使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらう様話している。布団もご本人の物を持ち込んで頂いている。壁には写真や本人が作成した作品等を飾っている。	各居室は整理整頓が行き届き、綺麗な中で一日の生活を送っている。持ち込みは自由で、家族と相談しテレビ、使い慣れた家具、衣装ケース等を居室に配置し、家族の写真、職員から贈られた誕生日のお祝いカード等に囲まれながら思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでホール内、トイレ内には手すりがあり安全な環境の中で「出来ること」をやって頂いている。		